

令和7年度第4回瑞浪市地域公共交通協議会 会議録

会議の日時 令和8年1月29日（木）10時00分
会議の場所 瑞浪市役所 2階大会議室
出席委員 出席委員 18名
勝 康弘委員、磯部 友彦委員、下平 真一郎委員、高柿 弘義委員、
宮田 大輝氏（代理）、平田 宏保委員、牧村 潤一委員、中島 喜久夫氏（代理）、
藤田 明博氏（代理）、楠本 佳寛委員、羽柴 百合氏（代理）、山田 和洋委員、
中村 鈴彦委員、成瀬 貴之委員、小木曾 昌弘委員、廣瀬 浩一郎委員、
鈴木 創造委員、中村 恵嗣委員
事務局 足立 寛聡、加藤 聖也、小木曾 なつ
瑞浪市観光協会 日比野 智美

1. 開会

2. 会長あいさつ

- ・議長選出：磯部委員

3. 協議事項

(1) 瑞浪市コミュニティバス運行内容変更（案）について

事務局

（資料に基づき説明。）

【意見・質問】

下平委員

資料が膨大で分かりづらいと思うが、こちらを基に運輸支局の検査官は運行ルートや停留所の場所について、道路管理者や警察に確認の上許可を行っている。

診療所バスターミナルの供用開始が7月予定とあるが、停留所の場所の変更について、利用者の混乱がないよう周知を行ってほしい。運賃は変更がないということによいか。

事務局

診療所バスターミナルの変更については、広報等にて分かりやすく周知を行う。
運賃については、エリア制均一運賃であるため、変更はない。

議長（磯部委員）

周知の際は分かりやすい資料づくりが必要だと思うが、具体的な案はあるか。

事務局

4月1日に全戸配布する時刻表の中で、診療所バスターミナルについて掲載する。また、供用開始については、広報等にて案内を行い、混乱のないよう努めていく。

議長（磯部委員）

協議の手続きとしては4月変更分と合わせて行うのはよいが、早い段階で診療所バスターミナルの周知を行うと混乱を招く恐れがあるので、その辺り工夫してほしい。

小木曾委員

JA岐阜厚生連が運行するシャトルバスについても同じタイミングで乗降場所が変更となるため、併せて周知を行ってほしい。

会長（勝委員）

広報等については市の方で準備を行っていくが、バス車内での案内もお願いしたい。

→承認

（2）瑞浪市デマンド交通運行内容変更（案）について

事務局

（資料に基づき説明。）

【意見・質問】

下平委員

他の地域のデマンド交通は、あらゆる乗降場所を回っていると結構時間が掛かっていると聞く。新病院へ行くシャトルバスとの乗り継ぎがあると思うが、現状想定している時間でデマンド交通は運行できているか。

山田委員

釜戸地区の乗合率は1.7～2.0程度であり、1便につき1人か2人である。基本的に釜戸地区内で乗車し、瑞浪市街地で降車するため、ルートが決められている。定時定路線ではないが若干早めに目的地に着くため苦情はない。ただし、お客様から電車に間に合うか問い合わせがある場合は、約束はできないと伝えている。予約システムもAIで運行ルートを組んでいるため、時間には配慮して運行している。

議長（磯部委員）

デマンド交通もコミュニティバスと同様に診療所バスターミナルの乗降場所の変更がある。間違いがないよう、資料作成や周知の方法を検討して行ってほしい。

→承認

（3）地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（案）について

事務局

（資料に基づき説明。）

【意見・質問】

下平委員

乗合率1.7や2.0はデマンド交通としては乗り合っている方である。それが収支率の目標達成につながっていると見ている。費用負担額については、昨今の燃料費高騰や運転手の処遇改善等により厳しいところがあり、費用を削減するためにはサービスの低下につながりかねない。費用を下げることを考えるのではなく、サービスの内容も考えていかなければならない。

事務局

今回の数値は今年度の9月末までの運行単価によるものであるが、10月から契約が更新されたため運行単価が増額しており、恐らく来年度は目標を達成できない。目標自体が適切か検討していく。

議長（磯部委員）

費用面と利用を増やす面は両輪であり、両方検討していかなければならない。地域の方がどういった交通を望んでいるのか、意見交換をして把握していってもらえればと思う。

→承認

(4) 瑞浪市コミュニティバス車両の移動円滑化基準適用除外について

事務局・山田委員

(資料に基づき説明。)

【意見・質問】

質疑なし。

→承認

(5) 恵那市自主運行バス(瑞浪山岡線)の運行内容変更(案)について

事務局

(資料に基づき説明。)

【意見・質問】

質疑なし。

→承認

4. 報告事項

(1) 瑞浪市観光協会より観光デマンド交通の実績報告について

瑞浪市観光協会

(資料に基づき説明。)

【意見・質問】

下平委員

運輸局は観光事業も所管しており、インバウンドの誘致も力を入れている。年間の外国人の旅行者数が4千万人を突破し、日本に落ちたお金が9.5兆円で過去最高を更新した。大都市への来訪が多い中、地方へも行ってもらいたいというのが観光庁の願いであるため、この事業の趣旨は理解できるが、交通会議としては運転手不足が叫ばれており、輸送のリソースが限られている中で、この事業をいつまで続けるのかという問題もある。説明にあったように、街道踏破が目的である場所ならば、デマンド交通は諦めるというのも一つの手かもしれないが、客層が妻籠や馬籠と一緒にするのか違うのか、もし分析や方向性があれば教えてほしい。

瑞浪市観光協会

瑞浪地区を歩かれる方は踏破を目的としている人が多い。馬籠等は歩く以外の魅力があるため、踏破を目的とする人以外の観光客が来ている。歩く以外の魅力を作らなければ観光客は来ないため、まず瑞浪市の観光資源はどこにあるのか、宿場町をどのように活用するのかを再度検討していく。観光協会の仕事は観光振興事業であるため、公共交通も踏まえなければならないが、どのような形で中山道を活性化できるか、考えていきたい。

議長(磯部委員)

どのような目的で観光しているのか、どのタイプの観光客を狙っていくのかは戦略が必要である。あらゆるタイプを取り込もうとするとかなりの準備が必要になるが、タイプを絞って大事にするのも一つの戦略かもしれない。

高柿委員

自転車施策を担当しており、東濃の6市1町に聞き取りを行った結果、観光客は自転車を使わないとのことだった。中山道へ行く観光客の交通手段を聞いたところ、起点側はバスを利用し

て中津川まで行く、インバウンドの方はツアーで名古屋からバスで来て歩きながら途中の宿場町で泊まるなどといったことが多いようだった。話を聞いていて、中山道の観光事業は一つの市町で動くのは難しいのではないかと感じた。単独で取り組むのではなく、連携した方がいいのではないかと。

議長（磯部委員）

他市との連携はあるのか。

瑞浪市観光協会

観光協会としては、中山道事業での連携はされていない状況。他の観光事業については、東美濃歴史街道協議会等に参画しており、他市との連携もあるが、今後は中山道事業でも広域連携していきたい。

議長（磯部委員）

リニア新幹線でも岐阜県駅ができるため、そこを起点として繋がり、新しい試みを検討していくのもいいかもしれない。

山田委員

踏破を目的としているのであれば、御朱印のように歩いたという実績を証明するものがあるといいのではないかと。瑞浪市だけであればすぐに始められるし、横の連携があると更に楽しみが増える。また、イベント等で特別な証明書を発行すれば、リピーターも期待出来るかもしれない。インバウンドの方は日本人と求めているものが違うので効果はないかもしれないが、そのようなやり方もあるのではないかと考えた。

(2) バスターミナル整備事業について

事務局

(資料に基づき説明。)

【意見・質問】

下平委員

診療所内にも待合スペースができるのはありがたいことだと思う。診療所内にはバスの時刻表や案内等は掲示される予定はあるか。

事務局

診療所バスターミナル内にある待合所には掲示板を設け、そこにて時刻表等を設置する予定である。診療所内については、今後、厚生連様に周知のご協力をお願いしていく。

議長（磯部委員）

これからICTの時代になり、リアルタイムに状況を把握できるようになっていくため、その辺りもうまく活用できるといいと思う。

このターミナルは、コミュニティバスやデマンド交通も乗り入れると思うが、タクシーで来た場合はどうなるか。

事務局

タクシーの乗り入れは想定していない。こちらも、診療所前の駐車場にてタクシーの乗降を対応できないか厚生連様と相談していきたい。困難な場合は、検討する必要があると考える。

議長（磯部委員）

自転車で来た人の対応はどうなるか。

事務局

こちらについても、ターミナル内に駐輪場を確保することはできなかったため、診療所に自転車で来る方と同様に駐輪させてもらえないか、厚生連様と相談していきたい。

議長（磯部委員）

駅前広場と同様の検討を想定し質問した。利用者は同じような使い方をすると思うので、その発想も必要だと思う。

小木曾委員

シャトルバスの案内を広報に掲載した後、ターミナルまで車やタクシーで来た場合の問合せがあった。車の場合は、新病院まで直接車で行ってもらおうよう案内している。診療所の駐車場は、満車であったり健診車両であったりでタクシー等の停車は困難な場合もあると思う。診療所バスターミナル内で乗降できる可能性もあるのか。

事務局

診療所バスターミナル内には2、3台のバスが駐停車する想定である。一般車両が進入してくると事故の恐れもあるため、安全性を確保するためにも、今のところはバス専用としていきたいと考えている。

議長（磯部委員）

駅前と同じ現象を想定しておいた方がよい。お迎え車両が周辺に待機すると混雑するため、体制の対策を予めしておく必要がある。

(3) AIオンデマンド交通の視察報告

事務局

（資料に基づき説明。）

【意見・質問】

議長（磯部委員）

他の市町村でうまくいっていても、瑞浪市で機能しなければ意味がない。引き続き、いろんな情報を収集し検討をしていただきたい。

(4) 自動運転実証運行の報告

事務局

（資料に基づき説明。）

【意見・質問】

山田委員

事業者としてヒアリングを受けたが、新病院へのルートとして非常にハードルが高いと言われた。まず、一本道であるため、たとえ35km/hで走ったとしても渋滞することが想定される。また、緊急車両のサイレンの音が聞こえると、自動運転車両は停止してしまうと伺った。一本道のため、緊急車両は追い越していくことができなくなる。瑞浪市と土岐市は新病院までのルートを想定しているため、現状の技術では非常にハードルが高いと感じた。その他にも、雪がダメであったり、道路上の草木の剪定やガードレールの有無等、課題が多くある。世の中の期待は大きいですが、協議会の中では現状の技術で実現するのは厳しいことを共有しておく。

議長（磯部委員）

実証運行ということで、実際に町の中に出ていき、不具合を発見していく段階である。その不具合はプログラムが問題なのか、町の中の歩行者や自転車等が同じ空間の仲間として認め合う必要があるのではないかといった話も出てきている。

(5) 瑞浪市内の公共交通状況について

事務局

(資料に基づき説明。)

【意見・質問】

下平委員

国の補助金の要件である稼働率30%を切りつつあるとのことだが、先ほどのAIオンデマンド交通の視察の結果、それほど肯定的な意見がなかったのは、電話予約の方がいいということか。新規利用者を開拓するために、AIは役立たないと思っているのか、その辺りの考えを教えてください。

事務局

新規利用者の開拓として、AIオンデマンド交通の需要がどの程度あるのか現状データがないため、今後検討していく際は確認していきたい。

山田委員

現在のデマンド交通は前日予約で30%程度の稼働率であり、70%は稼働していない状況である。AIオンデマンド交通とした場合、その稼働していない部分もコストがかかり、それは持続可能な乗り物になるのか疑問である。便利になっても3年で終わるサービスならばやらない方がいいというのが持論である。現在、隣の土岐市でAIオンデマンド交通を運行しており、その結果が数年後には出るため、参考にしつつ瑞浪市として目指すものは何か考えていく必要がある。

議長（磯部委員）

市以外の公共交通もあるため、どの程度供給する必要があるのか、引き続き情報収集をお願いしたい。

(6) 瑞浪市運転免許証自主返納支援制度実績について

事務局

(資料に基づき説明。)

【意見・質問】

平田委員

自主返納制度は交通事故の6割程度を高齢者が占めていたため、約10年前に始まった制度であるが、現在は病気や認知症、頻回事故等を中心に進めているため、警察として自主返納実績はあまり評価の対象としていない。

出張窓口は毎回多くの方が利用しているため、今後も続けていきたいと思っている。

ただ、区長会長から、地域の方が免許証を返納したが行政が面倒を見てくれないため、やはり免許証を返してほしい、といった意見を言われる。利用者としては、買い物や病院に行きたいときにいきたいという意見がある。自主返納を進めている警察としては、参考にしていただきたい。

事務局

現状の交通システムを維持していく中で、要望等を確認しながら対応していきたい。

5. その他

高柿委員

多治見砂防国道事務所では、国道19号と21号を管轄しているが、今年度凍結によるスタック事案が発生した。国道19号と21号は片側一車線のところも多く、通行止めになるとすべてが止まってしまう。ここにいる交通事業者の方はご存じだとは思いますが、改めて冬はスノータイヤか

チェーンを装着し、ルールを守った運行をお願いしたい。

6. 閉会

11時50分閉会

令和8年2月27日

議事録署名者 中村 恵嗣